

2017 年度 (平成 29 年度) 学校評価自己評価表

大門	中学校区	校番	福山市立 大津野小 学校
最終更新日		2018年(平成30年)3月10日	

I 福山市  
 ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。  
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力 思考力・判断力・表現力 主体性・積極性 共感性
<ul style="list-style-type: none"> <li>・力量ある教職員の育成</li> <li>・地域行事への参加等により地域を愛する児童生徒の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考力・表現力が弱い。</li> <li>・自尊感情の低い児童生徒が固定化している。</li> <li>・欠席率は低いが、体力向上ができていない。</li> <li>・目的意識をもった地域行事等への参加が不十分である。</li> </ul>	めざす子ども像 (義務教育終了時の姿)	自ら考え、学び、自尊感情の高い生徒
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体計画（年間指導計画一覧表）に基づく「見せる・見る授業」を実施する。</li> <li>・書く活動を1時間の授業の中に位置づける。</li> <li>・自尊感情を高める取組を継続する。</li> <li>・レーダーチャートを活用し学級力を高める取組をする。（年4回アンケート実施）</li> <li>・家庭学習ががんばり週間後の漢字確認テストを校区3小学校で作成・実施する。</li> </ul>

III 自校

ミッション		育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)				
見えない「人間の根っこ（学問・社会性）」を育てる		課題発見・解決力	思考力・判断力・表現力	主体性・積極性	共感性	
学校教育目標		めざす子ども像				
大きく広げる知識 積み上げる伝統 のばす体力		1・2年	自分で疑問や課題を見つけ、生活体験や既習事項をもとにして解決しようとしている。	生活体験や既習事項から順序立てて自分の考えを持ち、絵や言葉、動作などを駆使して表現している。	自分がやらなければならない勉強や仕事を進んで行っている。	身近な人に温かい心で接している。
		3・4年	疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決している。	生活体験や既習事項から理由や根拠をもとに自分の考えを持ち、絵や言葉、動作など適切な方法を選択し、表現している。	集団の中で、自分がやるべきことに気付き、進んで行動している。	相手の気持ちを考え、行動している。
現状		5・6年	疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決し、新たな課題を見つけている。	生活体験や既習事項から適切な理由や根拠をもとに、自分の考えを持ち、目的や意図に応じて、論理的に説明したり、適切な方法を選択したりして表現している。	集団の中で、相手や場の状況に応じて、自分でより高い目標を持ち、自分から行動している。	相手を思いやることの大切さに気付き、相手の立場を尊重し、行動している。
		教科等	国語科・特別活動			
研究		主題・内容等	主体的に学び、思考力・判断力・表現力を高める授業づくり ～課題発見・解決学習と協働の学びを通して～			
<児童生徒> ○自分のことばでめあてに対するまとめや振り返りを書くことができる児童が増えたが、基礎学力・活用力は低い。 ○給食指導の強化により、給食残量が減ってきた。 △いろいろな場を設定し、認め合う中で自尊感情が高まってきたが、低い児童が固定化している。 <授業> ○課題追求型のめあて設定や評価規準の提示を通して、教師の授業に対する意欲は向上してきた。 △教師主導で、知識理解・習得のための授業が多い。児童が主体的に課題を発見したり、疑問に思ったことを追求したりする授業が少ない。思考力・表現力を培う授業づくりが必要である。 △学級会活動における児童の育ちの学級差が大きい。		めざす授業の姿	自ら考え、学び、友達と協働しながらともに高まり合う授業 ・自分の考えを根拠をもとに書くことができる授業 ・児童が互いに学び合い、「わかった」「できた」「学びが深まった」と実感できる授業			

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 大津野小 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（2月末）					
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
1	基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成		継続	国語科・算数科における基礎学力を高める【思】	C児童への具体的な手立てを個別計画を立て、行う。	国語科の単元テストの全観点において、60%未満の児童を低学年6%,中学年9%,高学年12%未満にする。【単元テスト】	□単元テストは12学級中10学級が達成し83.3%。	3	3	・課題のある学習内容について補充できる単元を学年で確認し、見通しを持って指導する。	□単元テストは12学級中12学級が達成し100%。 ◎目標に対する平均達成率は100%。	4	4	5	・「読む」領域では必要に応じて本文にサイドラインを引かせる。 「話す・聞く」領域ではメモを書かせる等、基礎的・基本的な技能を指導する時間を確保する。
						算数科の単元テストの「技能」観点において、60%未満の児童を低学年6%,中学年9%,高学年12%未満にする。【単元テスト】	□単元テストは12学級中11学級が達成し91.6%。 □C児童に対する具体的な手立てを行い、単元テストは12学級中9学級が達成し75%。	3	3	・C児童への取組の記録と、ヒントカードなど有効であった物をファイルに残す。 ・記録をもとに学年主任会や学年会で毎月交流する。	□単元テストは12学級中11学級が達成し91.6%。 □C児童に対する具体的な手立てを行い、単元テストは12学級中11学級が達成し91.6%。 ◎目標に対する平均達成率は91.6%。	4	4	4	・課題の大きい単元を分析し、学力アップデーで補充学習をする。 ・学級全体への手立てとC児童への手立ての違いを意識して授業を行い、個別の指導計画を作成する。
		★	見直し	思考力・判断力・表現力を育てる【思】	思考やまとめの場面で教科用語等キーワードを提示する。	めあてに対するまとめや振り返りが書ける児童を低学年60%以上,中学年70%以上,高学年80%以上にする。【児童ノート】	□まとめや振り返りが書ける児童は12学級中9学級が達成し75%。 □教科用語やキーワードの提示は、11学級中8学級が達成し、達成率は72.7%。	3	3	・まとめ方を提示する。 ・まとめや振り返りを交流し、自力で書ける児童が増えるようにする。	□まとめや振り返りが書ける児童は12学級中12学級が達成し100%。 □教科用語やキーワードの提示は、12学級中9学級が達成し、75%。 ◎目標に対する平均達成率は87.5%。	4	3	4	・単元指導計画を練る際に、「課題追求型のめあて」と「本時のキーワード」を意識して考える。 ・手本となるノートを掲示したり紹介したりすることで、ノートの完成イメージを持たせる。
1	主体性・積極性の育成	★	新規	自ら考え、動く児童を育てる【課】【主】	OPT（大津野プロジェクトタイム）を月1回実施する。	学級力をレーダーチャートにおける「目標達成力」を80%以上にする。【毎月のレーダーチャート】	□レーダーチャートは16学級中14学級が達成し87.5%。 □OPTは16学級中16学級が達成し100%。	4	3	・取組後は必ず振り返りを行い、次につなげる。 ・OPTについてさらに取り組みやすい方法を考えていく。	□レーダーチャートは16学級中14学級が達成し87.5%。 □OPTは16学級中16学級が達成し100%。 ◎目標に対する平均達成率は93.7%。	4	4	4	・途中経過を学級全体で確認し、取組方法を再検討させる。 ・児童の変容が分かるようなOPTの掲示を検討する。
						見直し	自尊感情を高める【主】【共】	自尊感情を高める活動を年間6回以上取り組む。	「自分の良さは周りから認められている。」と肯定的に評価する児童を85%以上にする。【児童アンケート】	□児童の肯定的評価は16学級中9学級が達成し56.2%。 □自尊感情を高める活動をかがやき班遠足後と体育発表会後の2回実施。	3	2	・頑張っている児童を教職員全員で付箋紙を使って評価し、頑張りや素敵なところを紹介する。	□児童の肯定的評価は16学級中11学級が達成し68.7%。 □自尊感情を高める活動を7回実施し、116.6%。 ◎目標に対する平均達成率は92.6%。	3